

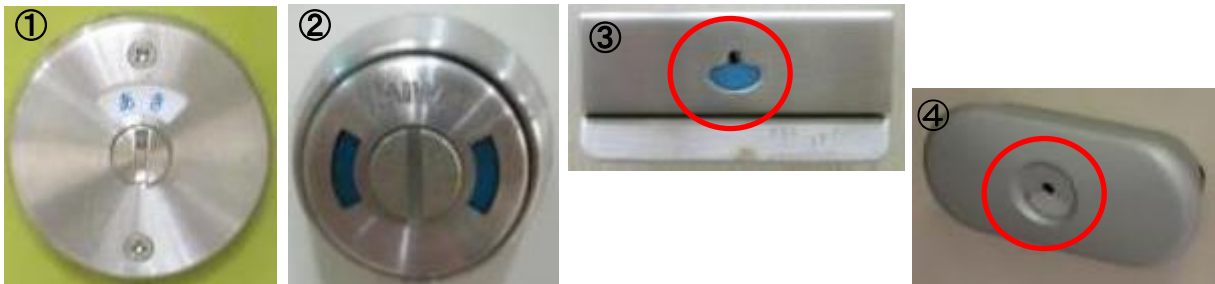
トイレからの救出



約20年前、他院において発生した“患者さんがトイレに閉じ込められた事例”を先日目にしました。内容は「①患者さんが意識を失った ⇒ ②すぐに看護師が駆け付けた ⇒ ③救出に手間取った」という事例で、患者さんは残念ながら亡くなっています。その後、患者さんのご家族は「病院がスタッフにドアを開ける方法（解錠方法）を周知しておらず、トイレからの救出に手間取った」として訴訟に発展したようです。

訴訟の詳細はさておき、患者さんが意識消失や転倒するなどしてトイレに閉じ込められてしまう事例が全国で時々発生しているようです。当院でも昨年（2017年）5月に患者さんがトイレに閉じ込められた事例が発生しました。幸い大事には至りませんでした。ドアを開閉するのに若干の時間を要しました。理由は解錠するための道具（カギ）の準備、解錠方法に不慣れなことでした。翌月、各部署には錠部の写真と解錠方法について写真付きでお知らせしていますがご記憶にありますか？ カギの保管場所をご存知ですか？ 新入職員にも教えることができるように、部署内で改めてご確認ください。

トイレの解錠も患者さんの安全につながる大切な事柄です。医療安全管理室では解錠方法のレクチャーを承っています。



①②の場合

真ん中の溝にコインやマイナスドライバーなどを差し込み、開く方向に回してください。

③④の場合

赤い丸の中の小さい穴に専用のカギを差し込み、ゆっくりと時計回りに回してください。

（下の写真はカギです。院内には3種類ありますが、どれでも解錠することができます）

